地域農業を守る魅力ある大規模複合経営を目指して
～家族の力で地域を盛り上げ、みんなを笑顔に～

株式会社 ムラサキ農産
代表取締役　八鍬　良則（舟形町）

１　受賞者の概要

平成 25 年４月に法人設立。大規模稲作に加え、夏秋期間にねぎ、葉ねぎとトマト、ラズベリー、冬期間にマッシュルームを栽培し、さらにトマトとラズベリーの加工を組み合わせて、常時雇用を活用した周年農業を確立している。

２　活動内容

⑴　地域の農地の受け皿として中心的役割を担う

社名にもなっている、舟形町紫山・向山地区の約45%となる農地を請け負って、水稲、ねぎ、トマト、ラズベリーを栽培し、地区の中心経営体として活躍している。

⑵　高い栽培技術とリーダーシップでねぎ産地をけん引

管内でもトップクラスの面積を有し、高い栽培技術で高品質なねぎを栽培して市場から高い評価を得ている。また、最上地域の「若手ねぎ研究会」のアドバイザーとして、栽培技術のレベルアップを支援して担い手育成に尽力するとともに、「最上広域野菜振興協議会ねぎ部会」の会長として、最上地域全体のねぎ生産者をけん引し、産地振興に貢献している。

⑶　施設の有効利用と６次産業化の取組み

水稲・ねぎの育苗後のハウスを利用し、特別栽培農産物認証のトマト栽培を行っている。また、平成28年に農産加工施設を導入し、トマトの一次加工品を町内すべての保育所、小・中学校の給食に提供するとともに、ラズベリー等をジャムやリーフティとして加工・販売し、６次産業化に積極的に取組んでいる。

⑷　女性の活躍

女性が経営に参画し、財務管理、ねぎ・トマト・ラズベリーの栽培管理、農産加工部門を担う他、各種役職に就いて活躍している。

⑸　担い手の育成と地域の雇用創出

地元中学校、高等学校等の就業体験を毎年受入れ、農業の魅力を若者に伝える取組みを積極的に行っている。また、常時・臨時雇用４名を入れ地域の雇用創出に貢献している。

３　今後の発展方向

雇用労働力の確保と出荷調製施設等の整備を計画的に進めるとともに、水稲省力化技術の導入等、効率的な経営を確立するための取組みを進め、若者が魅力に思う収益性の高い農業経営を実現していく。